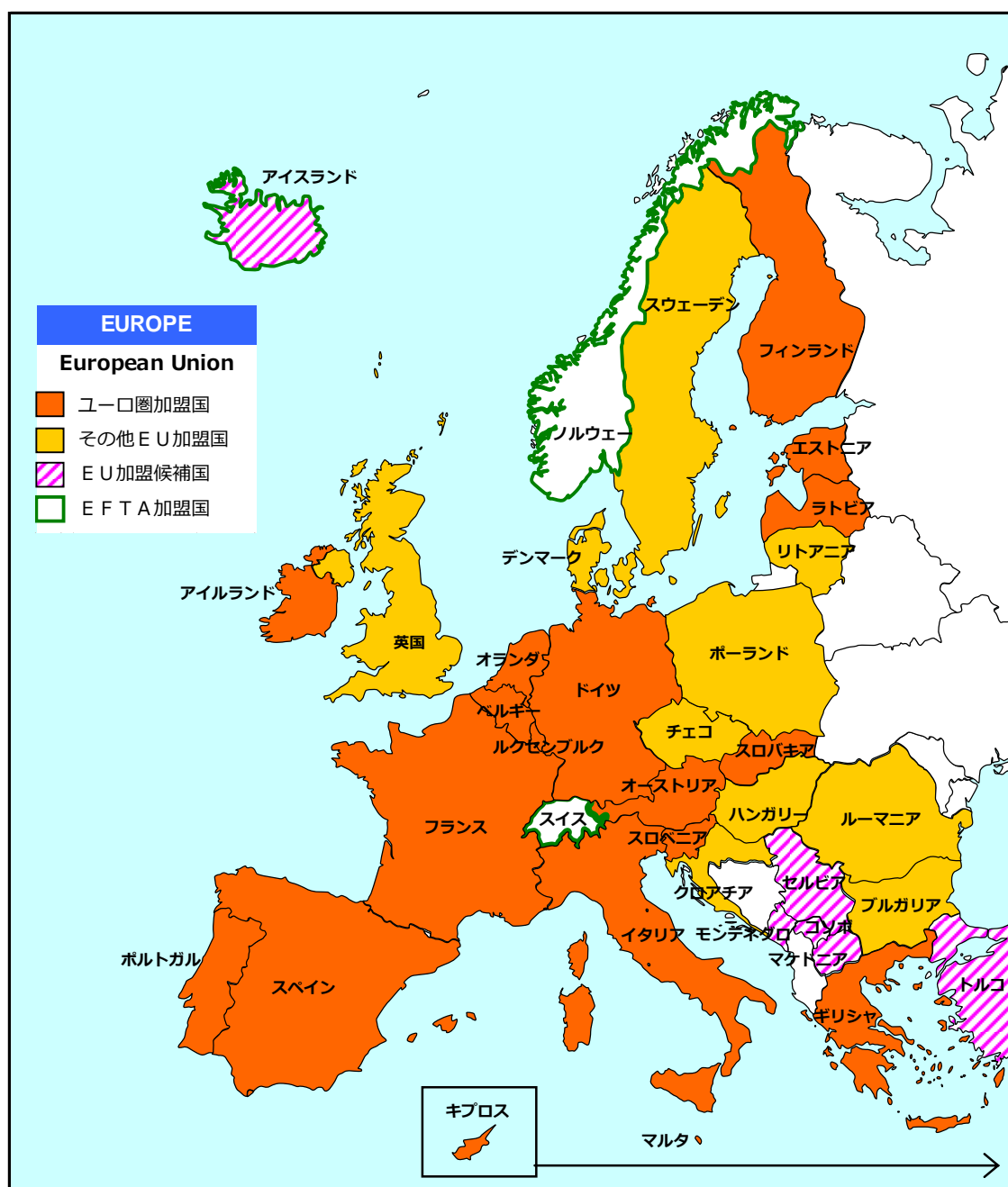


2014年3月26日 全13頁

欧州経済アップデート (2014.3)

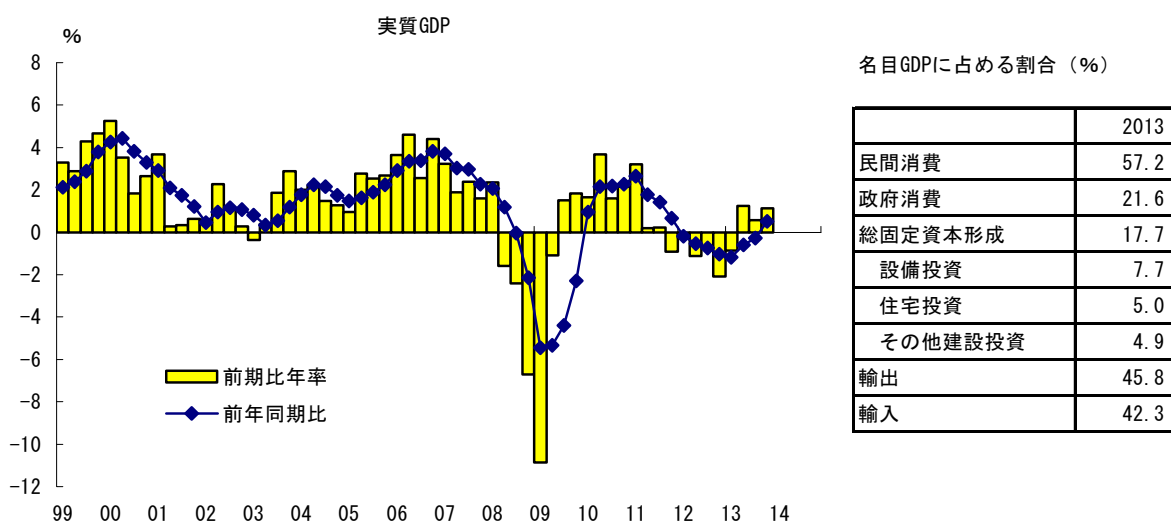
経済調査部
研究員 矢澤 朋子



出所：三角形「白地図専門店」サイトより大和総研作成

ユーロ圏 GDP

- 13年Q4のGDP成長率（第2次推計）は前期比+0.3%と速報から変わらず。13年通年では速報から下方修正され、前年比-0.5%
- Q4の個人消費は前期比+0.1%と3四半期連続のプラス。前年比では+0.3%と11年Q3以来のプラス成長。総固定資本形成は前期比+1.1%と11年Q1以来の大幅な伸びを記録
- 輸出は前期比+1.2%とQ3と比べて加速する一方、輸入は同+0.4%と減速し、純輸出は再びプラス寄与に転じた



ユーロ圏の需要項目別GDP成長率（前期比：%）

	11Q1	11Q2	11Q3	11Q4	12Q1	12Q2	12Q3	12Q4	13Q1	13Q2	13Q3	13Q4
実質GDP	0.8	0.0	0.1	-0.2	-0.1	-0.3	-0.2	-0.5	-0.2	0.3	0.1	0.3
個人消費	0.2	-0.6	0.2	-0.7	-0.3	-0.5	-0.1	-0.5	-0.1	0.2	0.1	0.1
政府消費	-0.1	0.1	-0.3	0.2	-0.3	-0.3	-0.2	0.0	0.3	-0.0	0.4	-0.2
総固定資本形成	2.4	-0.6	-0.4	-0.7	-1.1	-1.8	-0.6	-1.3	-1.7	0.2	0.6	1.1
設備投資	2.1	0.2	0.4	-1.1	-1.0	-2.1	-0.5	-1.0	-1.3	0.8	0.4	2.1
住宅投資	2.8	-1.1	-1.3	-0.4	-0.3	-1.5	-0.8	-1.8	-1.3	-0.5	0.9	-0.1
その他建設投資	2.5	-1.4	-0.6	-0.3	-2.1	-1.7	-0.6	-1.4	-2.7	-0.2	0.4	0.5
輸出	1.6	0.4	1.3	0.3	0.8	0.9	0.7	-0.6	-0.9	2.3	0.0	1.2
輸入	1.5	-0.1	0.6	-1.1	-0.0	-0.2	0.3	-0.9	-1.1	1.7	1.0	0.4

ユーロ圏の需要項目別GDP寄与度（前期比：%）

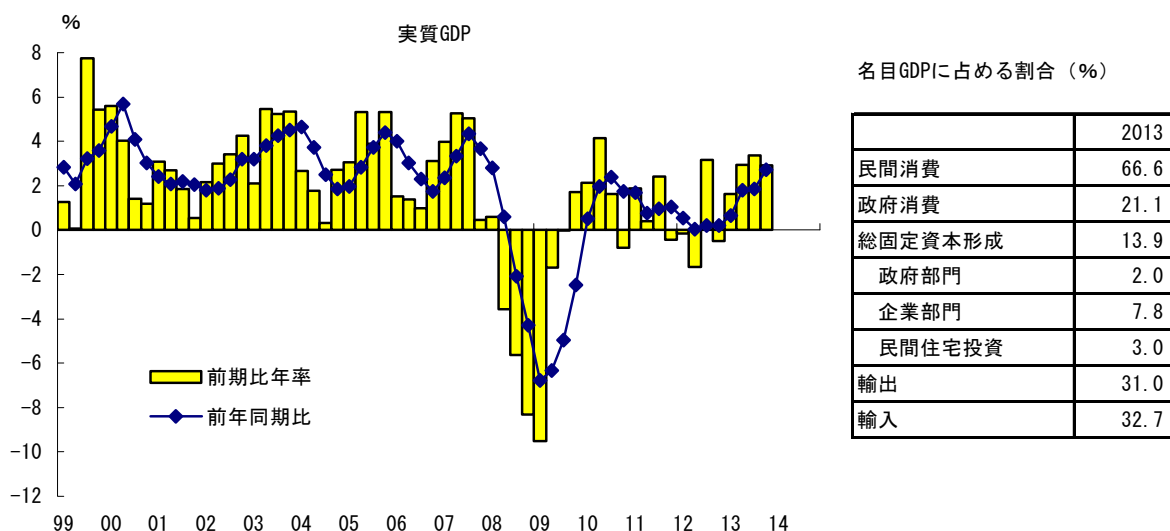
	11Q1	11Q2	11Q3	11Q4	12Q1	12Q2	12Q3	12Q4	13Q1	13Q2	13Q3	13Q4
実質GDP	0.79	0.05	0.05	-0.23	-0.07	-0.28	-0.16	-0.53	-0.21	0.31	0.15	0.28
個人消費	0.1	-0.32	0.14	-0.38	-0.16	-0.30	-0.05	-0.30	-0.05	0.09	0.07	0.08
政府消費	-0.03	0.01	-0.06	0.04	-0.06	-0.06	-0.04	0.01	0.06	-0.01	0.08	-0.05
総固定資本形成	0.45	-0.12	-0.07	-0.13	-0.20	-0.33	-0.11	-0.25	-0.30	0.03	0.10	0.19
設備投資	0.18	0.02	0.03	-0.10	-0.08	-0.18	-0.04	-0.08	-0.11	0.07	0.03	0.18
住宅投資	0.15	-0.06	-0.07	-0.02	-0.02	-0.08	-0.04	-0.09	-0.06	-0.03	0.04	-0.01
その他建設投資	0.13	-0.07	-0.03	-0.01	-0.10	-0.08	-0.03	-0.07	-0.13	-0.01	0.02	0.02
在庫変動	0.20	0.26	-0.27	-0.35	-0.02	-0.07	-0.15	-0.10	0.02	-0.16	0.29	-0.32
輸出	0.71	0.16	0.56	0.15	0.37	0.39	0.33	-0.26	-0.43	1.07	0.01	0.56
輸入	-0.64	0.06	-0.23	0.46	0.00	0.09	-0.12	0.37	0.47	-0.68	-0.40	-0.17
純輸出	0.08	0.22	0.33	0.60	0.37	0.48	0.21	0.11	0.04	0.38	-0.39	0.39

出所：Eurostat、Haver Analytics データより大和総研作成

* このレポートに掲載しているユーロ圏データに関するおことわり
 ユーロ圏とは、EU加盟国のうち単一通貨ユーロを導入し、金融政策を欧州中央銀行（ECB）に委ねている国々のこと。14年1月からラトビアがユーロの導入を開始し、現在は18か国。14年1月以降のデータが公表されている場合、過去に遡って18か国ベースに修正済み。13年12月まで公表のデータは17か国ベース。

英国 GDP

- 13年Q4のGDP成長率（第2次推計）は前期比+0.7%と速報と変わらず。13年通年では前年比+1.8%と小幅下方修正
- Q4の個人消費は前期比+0.1%とわずかながらプラス成長を維持。Q1及びQ3は上方修正されたが、Q2は下方修正されマイナス圏へ転落
- Q4の総固定資本形成は同+2.4%。うち、企業部門はプラス成長が続くが、民間住宅投資は12年Q3以来のマイナスに転落。純輸出は再びプラス寄与に転換



英国の需要項目別GDP成長率（前期比：%）

	11Q1	11Q2	11Q3	11Q4	12Q1	12Q2	12Q3	12Q4	13Q1	13Q2	13Q3	13Q4
実質GDP	0.5	0.1	0.6	-0.1	-0.0	-0.4	0.8	-0.1	0.4	0.7	0.8	0.7
個人消費	-1.1	0.0	-0.1	0.6	0.5	0.5	0.2	0.7	1.2	-0.2	1.1	0.1
政府消費	-0.1	0.1	-0.4	0.4	2.5	-1.5	0.1	0.4	-0.8	1.8	0.6	0.3
総固定資本形成	-4.8	6.5	-1.1	-1.2	5.1	-2.8	-2.2	-4.5	0.5	3.9	1.7	2.4
政府部門	0.0	-13.3	5.1	-4.8	14.2	-4.1	-9.8	1.0	-11.2	12.1	1.0	6.4
企業部門	-5.3	12.3	-3.5	-1.2	7.1	-1.8	0.4	-7.8	3.1	0.7	2.0	2.4
民間住宅投資	-6.5	6.2	7.8	1.1	-5.1	-4.8	-2.3	0.2	0.5	8.0	0.8	-0.5
輸出	3.8	-5.2	1.1	4.7	-1.7	-1.0	2.9	-1.9	-0.0	3.1	-2.8	0.4
輸入	-2.6	-0.7	1.0	1.1	0.7	1.4	0.6	-0.2	-2.4	3.0	0.7	-0.9

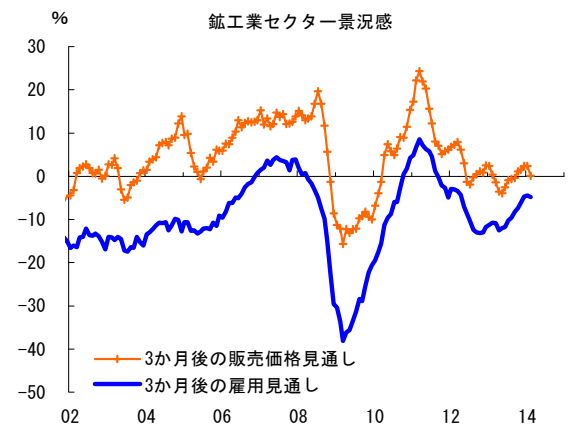
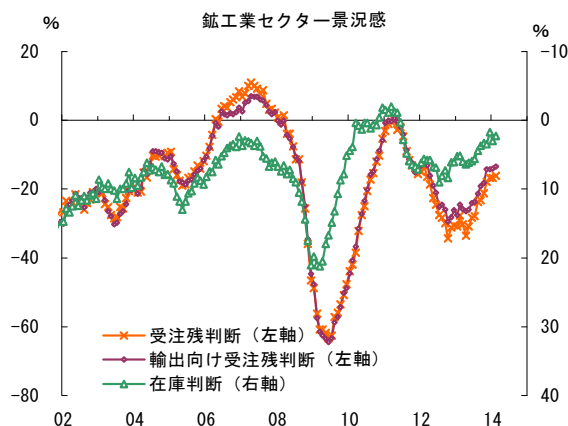
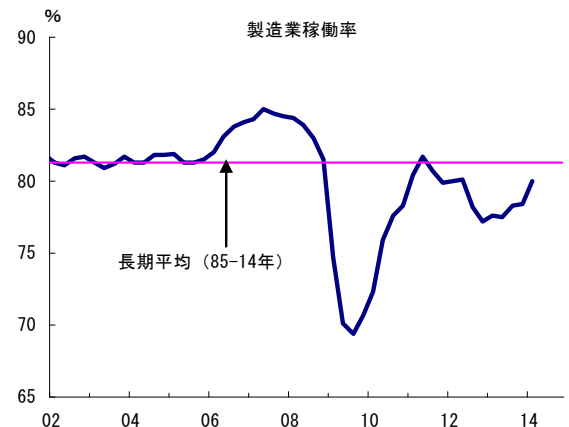
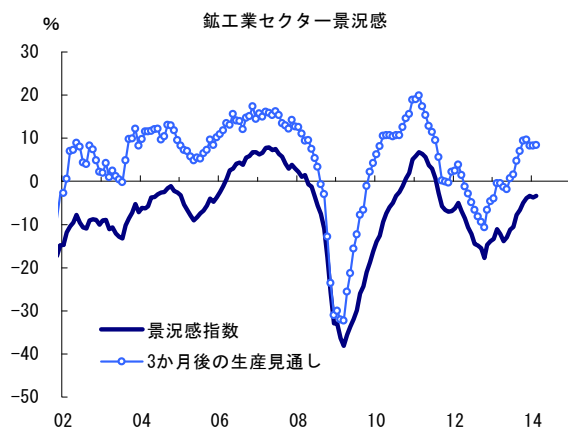
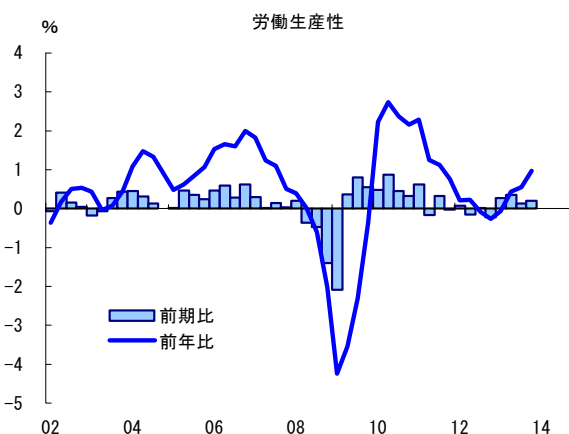
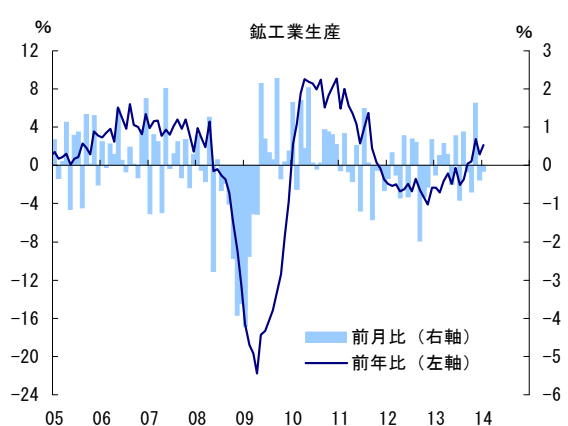
英国の需要項目別GDP寄与度（前期比：%）

	11Q1	11Q2	11Q3	11Q4	12Q1	12Q2	12Q3	12Q4	13Q1	13Q2	13Q3	13Q4
実質GDP	0.47	0.10	0.60	-0.11	-0.04	-0.42	0.78	-0.12	0.41	0.73	0.83	0.72
個人消費	-0.74	0.01	-0.09	0.35	0.33	0.29	0.10	0.45	0.76	-0.13	0.73	0.07
政府消費	-0.01	0.03	-0.10	0.10	0.55	-0.35	0.03	0.10	-0.17	0.40	0.13	0.07
総固定資本形成	-0.70	0.90	-0.16	-0.17	0.73	-0.42	-0.32	-0.64	0.07	0.53	0.24	0.34
政府部門	0.00	-0.32	0.11	-0.10	0.30	-0.10	-0.22	0.02	-0.23	0.22	0.02	0.13
企業部門	-0.42	0.92	-0.29	-0.10	0.56	-0.15	0.03	-0.66	0.24	0.05	0.16	0.20
民間住宅投資	-0.20	0.18	0.24	0.04	-0.17	-0.15	-0.07	0.01	0.01	0.24	0.03	-0.02
在庫変動	-0.09	0.60	0.94	-1.46	-0.68	0.91	0.33	0.52	-0.89	-0.02	0.91	-0.17
輸出	1.16	-1.67	0.32	1.43	-0.55	-0.31	0.92	-0.60	0.00	0.98	-0.89	0.13
輸入	0.85	0.23	-0.32	-0.36	-0.22	-0.44	-0.21	0.07	0.79	-0.97	-0.25	0.30
純輸出	2.01	-1.44	0.01	1.08	-0.76	-0.75	0.71	-0.53	0.79	0.01	-1.14	0.43

出所：英国統計局、Haver Analytics データより大和総研作成

ユーロ圏 生産

- 1月の鉱工業生産は前月比-0.1%と2か月連続のマイナス。鉱業及び電気・ガス・水道が不振。前年比は、製造業（特に輸送用機器）の好調により+2.1%となった
- 2月の鉱工業セクター景況感は前月比やや改善。3か月後の生産見通し、受注残及び在庫判断の3つの構成要素すべてがわずかに改善した
- 13年Q4の労働生産性は前期比+0.2%と4四半期連続のプラス。前年比では+1.0%と加速し、12年Q4を底とした上昇基調が明確に

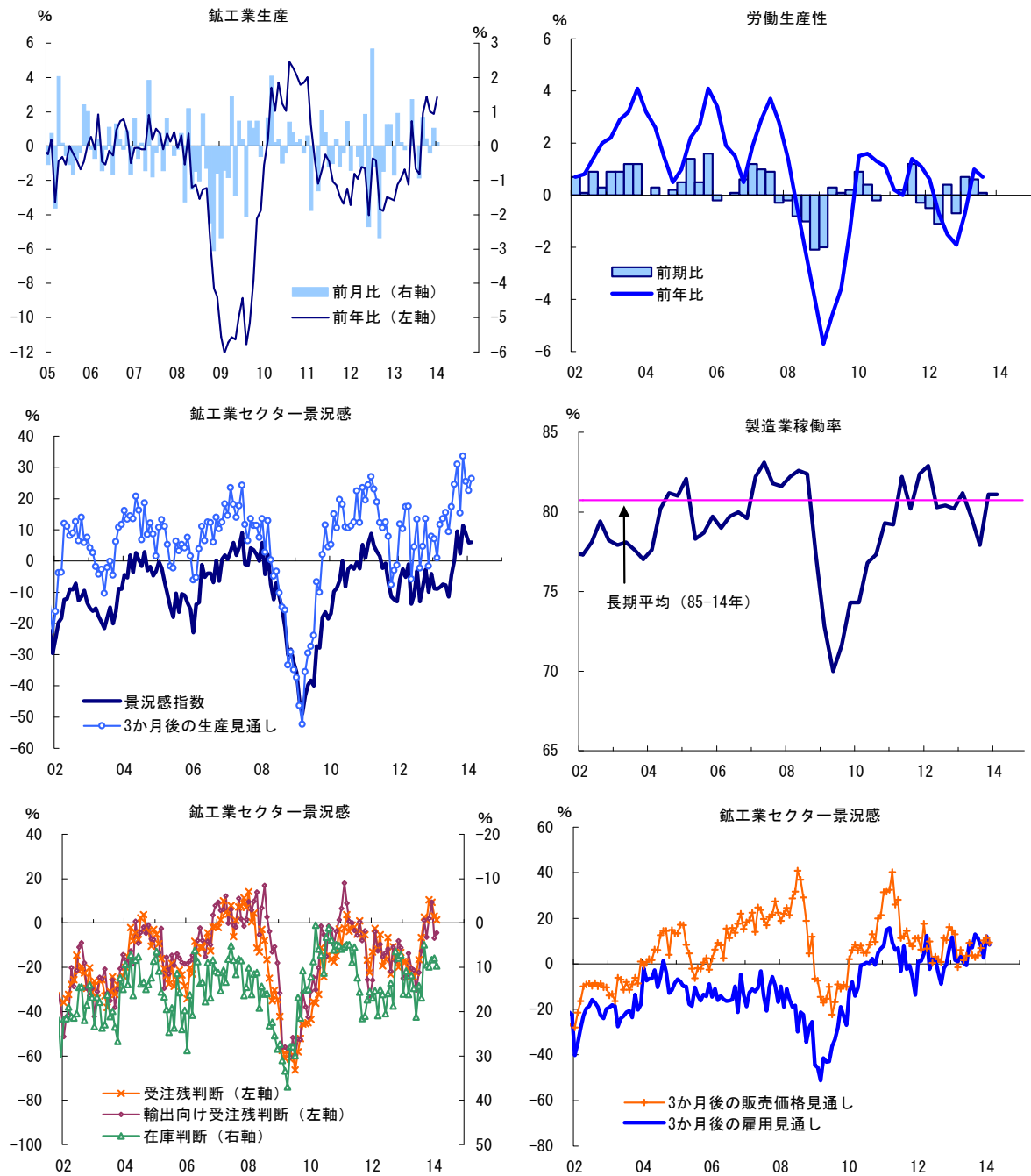


注：鉱工業セクター景況感の在庫判断は逆目盛（数値が小さいほど、景況感としては良好）

出所：Eurostat、ECB、欧州委員会データより大和総研作成

英国 生産

- 1月の鉱工業生産は前月比+0.1%とそろりしてプラス成長を維持。製造業はプラス成長を維持したが、鉱業がマイナスに転じた。前年比は、製造業と水道業の牽引により+2.9%
- 2月の鉱工業セクター景況感は前月比ほぼ横ばい。3か月後の生産見通しは改善したが、受注残及び在庫判断が悪化
- 3か月後の販売価格及び雇用見通しは、共に前月比で悪化に転じた

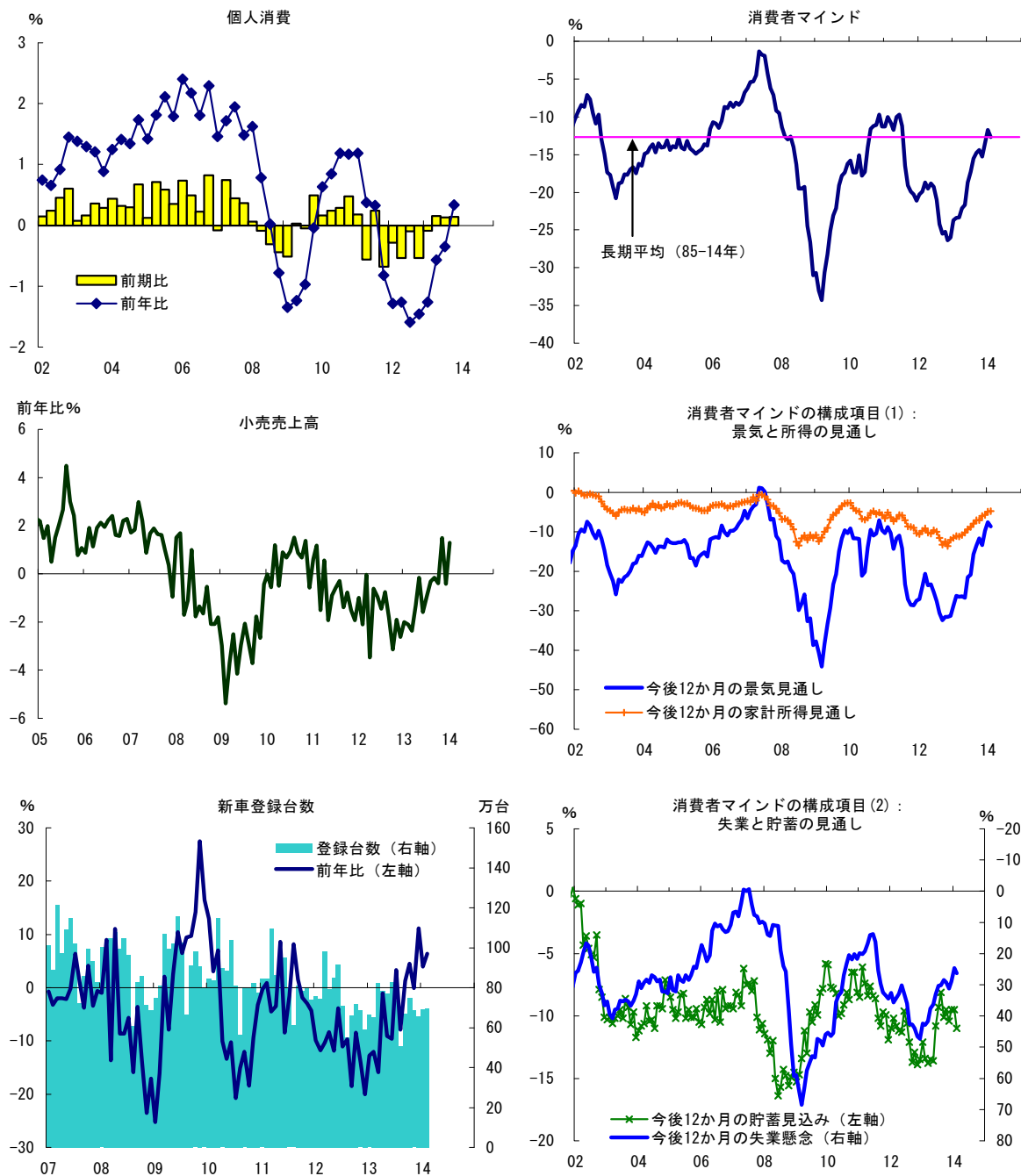


注：鉱工業セクター景況感の在庫判断は逆目盛（数値が小さいほど、景況感としては良好）

出所：英国統計局、Eurostat、欧州委員会データより大和総研作成

ユーロ圏 消費

- 1月の小売売上高は前年比+1.3%。非食品や自動車燃料が大きく増加した
- 2月の新車登録台数は前年比+6.3%と堅調な伸びが続く
- 2月の消費者マインドは長期平均と同水準を維持。今後12か月の景気見通し、貯蓄見込み及び失業懸念が前月比でやや悪化。なお、3月の速報値で消費者マインドは更に改善した

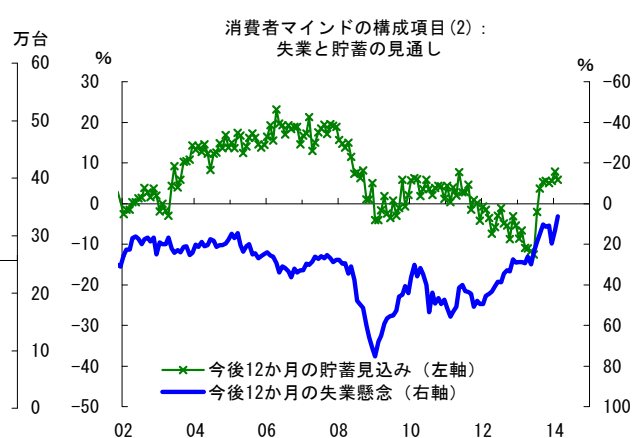
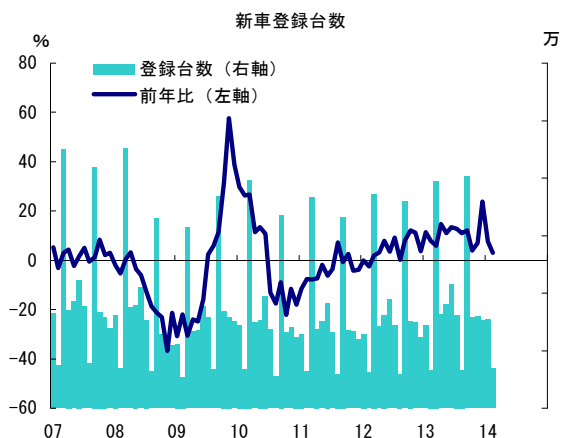
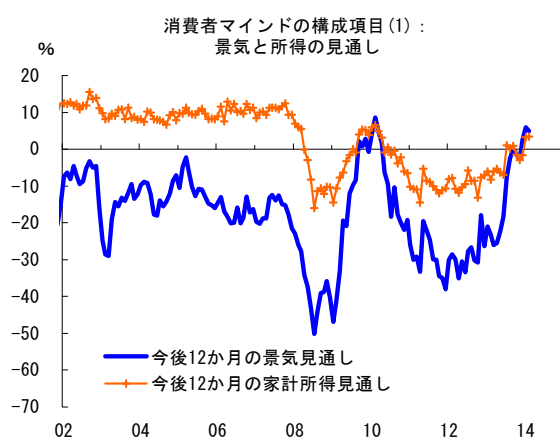
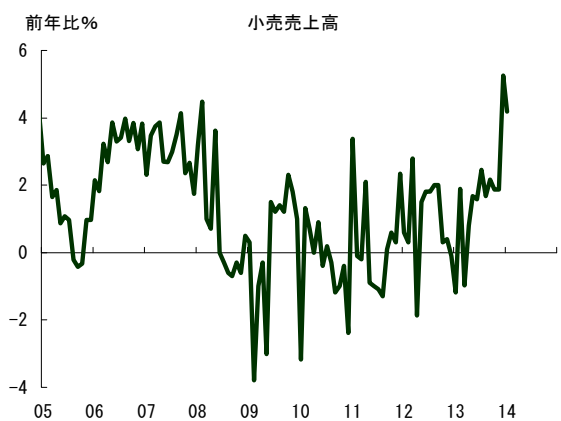
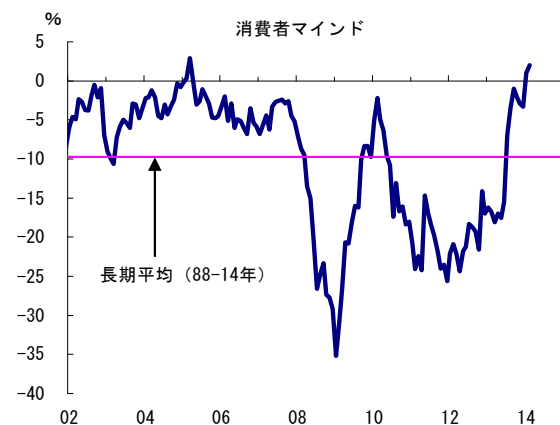
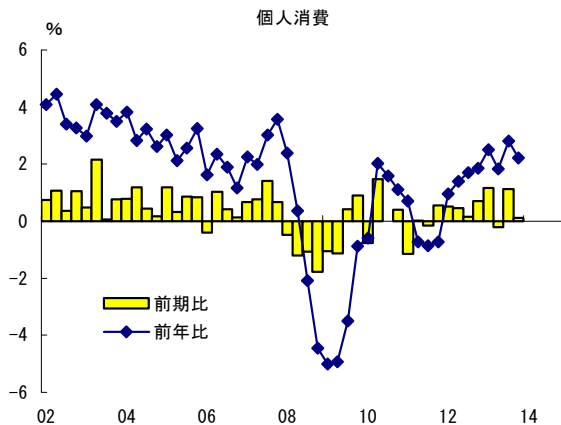


注：消費者マインドの構成項目は「大いに良くなる（増加する）」、「良くなる」、「変わらない」、「悪くなる」、「大いに悪くなる（減少する）」の5つの選択肢から選ばれた回答を加重平均したもの。失業懸念のみ逆目盛（数値が小さいほど、景況感としては良好）

出所：Eurostat、欧州委員会、ACEA データより大和総研作成

英国 消費

- 13年通年の個人消費は+2.3%の伸びを記録し、12年の+1.5%から加速。2年連続のプラス成長となった
- 2月の新車登録台数は前年比+3.0%と1月より減速
- 2月の消費者マインドは前月比で改善し、リーマン・ショック前のピークにより近づいた

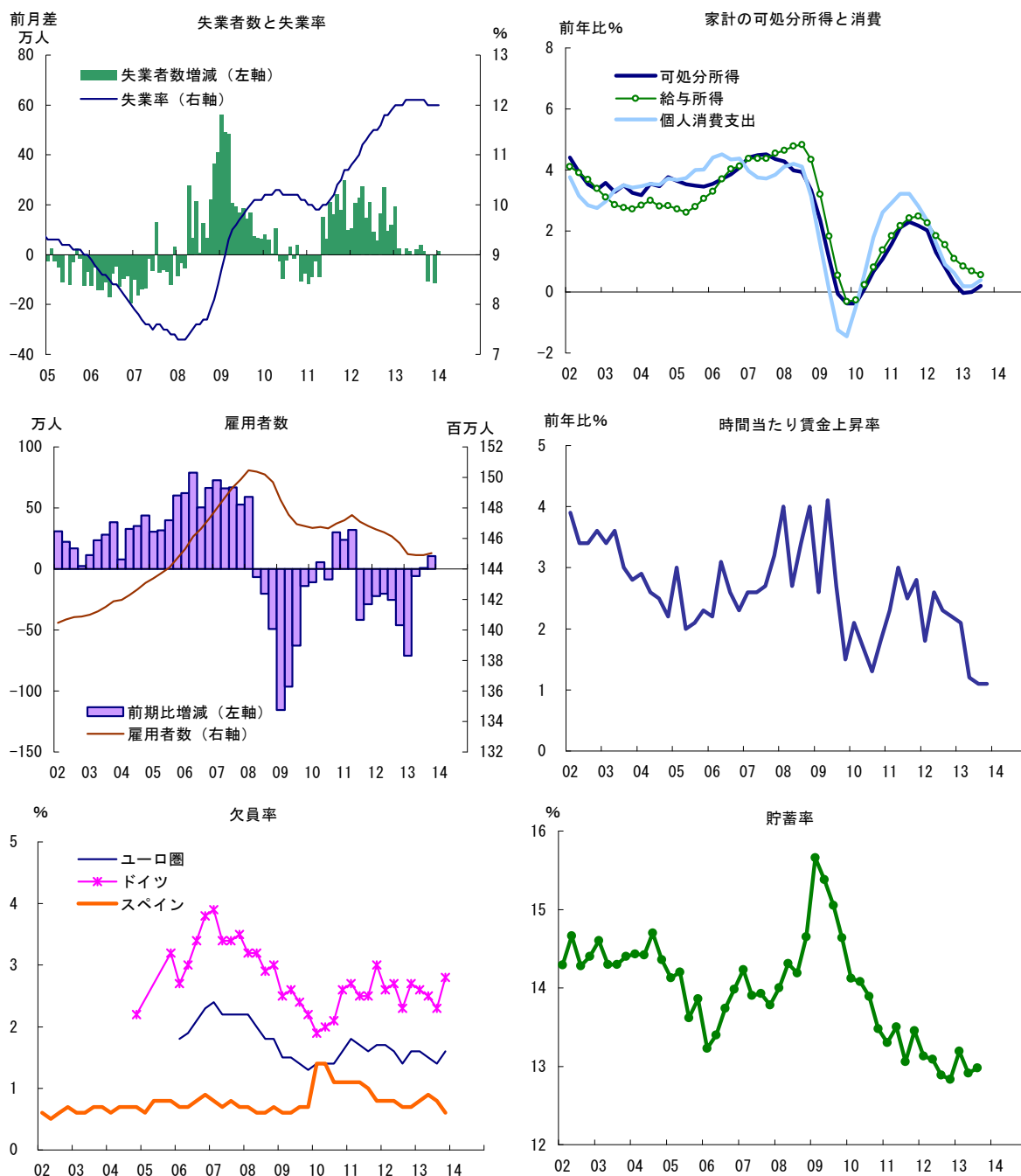


注：消費者マインドの構成項目は「大いに良くなる（増加する）」、「良くなる」、「変わらない」、「悪くなる」、「大いに悪くなる（減少する）」の5つの選択肢から選ばれた回答を加重平均したもの。失業懸念のみ逆目盛（数値が小さいほど、景況感としては良好）

出所：英国統計局、欧州委員会、ACEA データより大和総研作成

ユーロ圏 雇用・所得

- 1月の失業率は4か月連続の12.0%。失業者数は前月比+1万7千人と4か月ぶりの増加に転じた。ドイツ、スペインでは減少が続くが、イタリアで大きく増加
- 13年Q4の雇用者数は前期比+10万5千人となった。公的事務・教育での増加が最も大きく、貿易・旅行・食品サービスも大幅な増加に転じた
- 13年Q4の時間当たり賃金上昇率は+1.1%とQ3と変わらず。建設業では前年割れを脱した

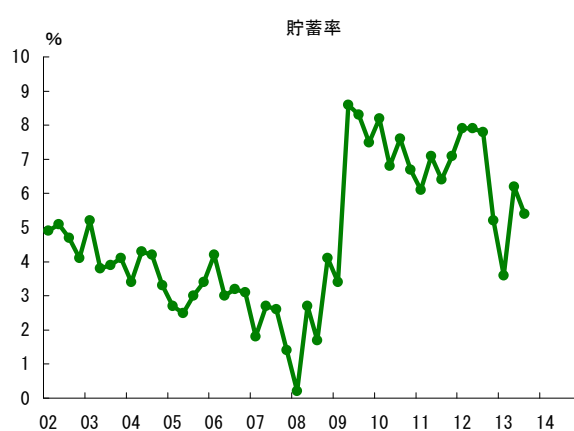
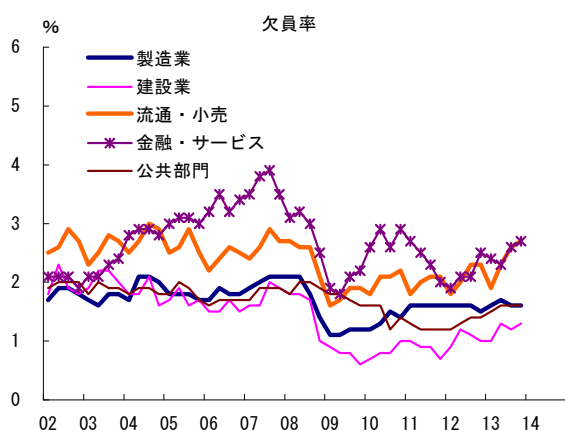
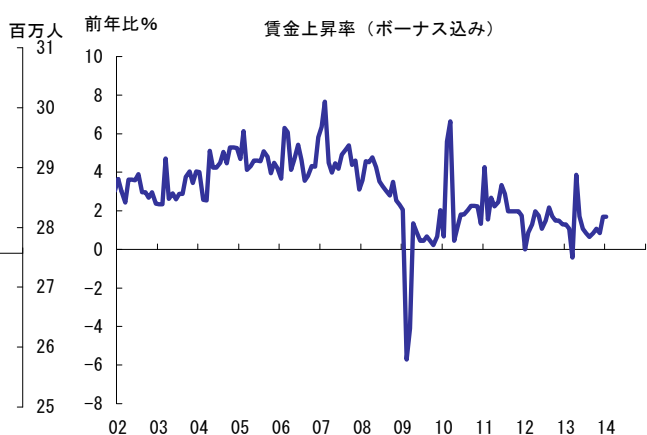
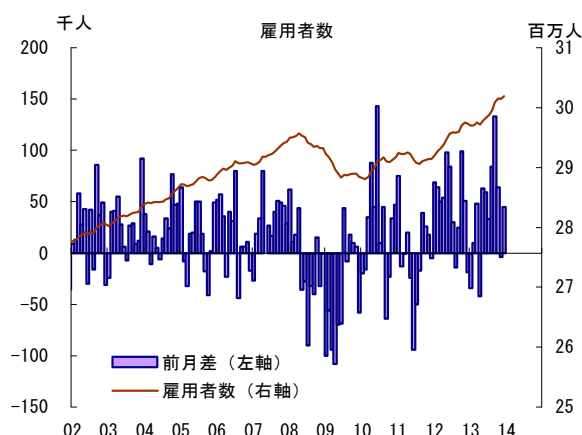
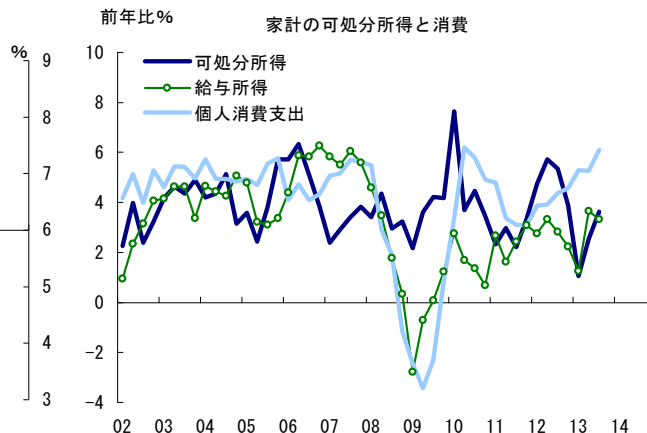


注：欠員率 (Job Vacancy Rate) = $\text{Number of job vacancies} / (\text{Number of occupied posts} + \text{Number of job vacancies}) \times 100$

出所：Eurostat、Haver Analytics、ECB データより大和総研作成

英国 雇用・所得

- 11-1月の失業率は10-12月と同じく7.2%。雇用者数は10-12月比+4万5千人と再び増加に転じ、統計開始以来最多を更新
- 2月の失業保険申請者件数は前月比での減少が継続し、08年11月以来の低水準
- 1月の賃金上昇率は前年比+1.7%と12月から変わらず。ただし内訳を見ると、建設業での賃金及びボーナスの上昇が目立つ

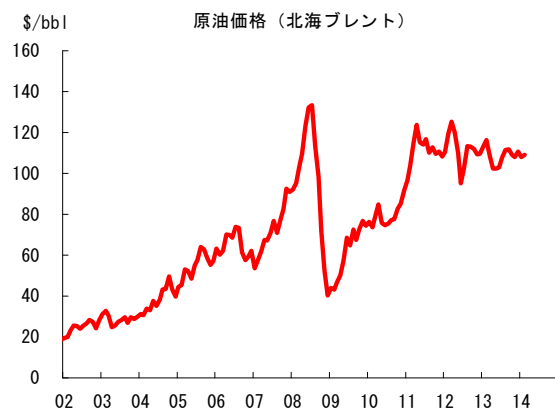
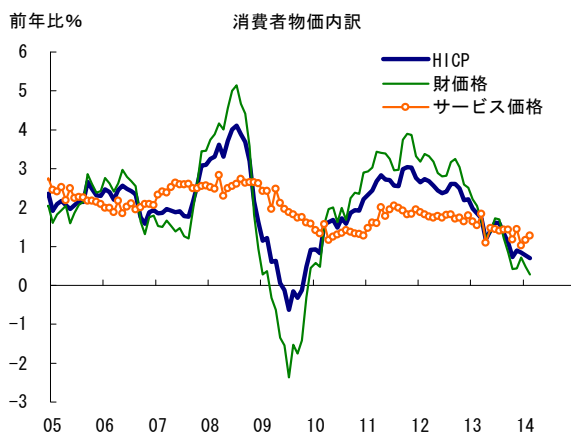
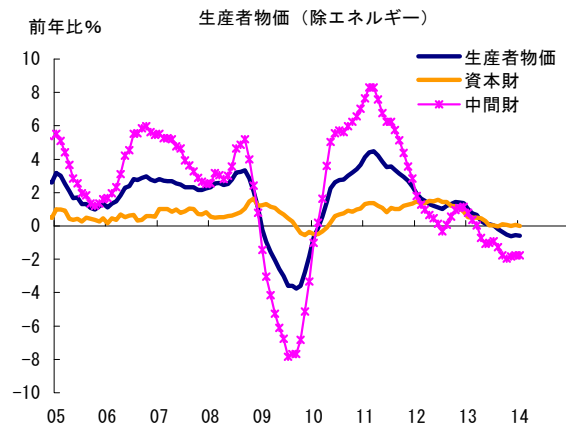
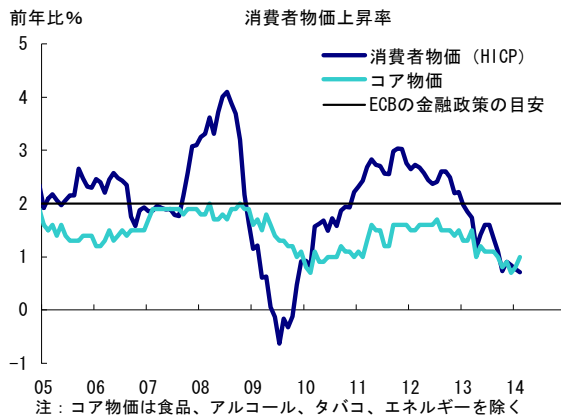


注：欠員率 (Job Vacancy Rate) = Number of job vacancies / (Number of occupied posts + Number of job vacancies) * 100

出所：Eurostat、Haver Analytics、英国統計局データより大和総研作成

ユーロ圏 物価

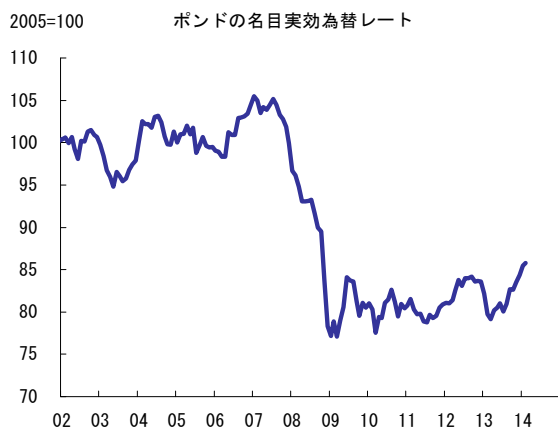
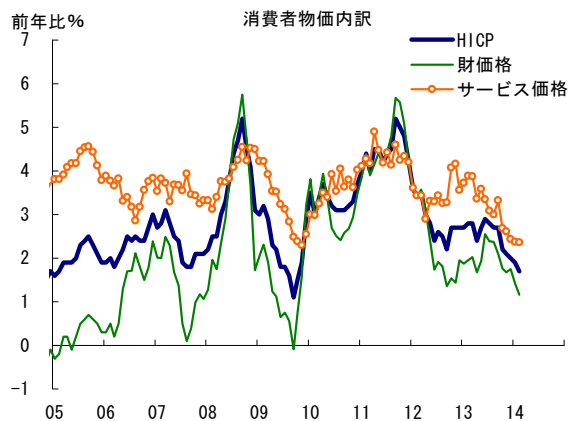
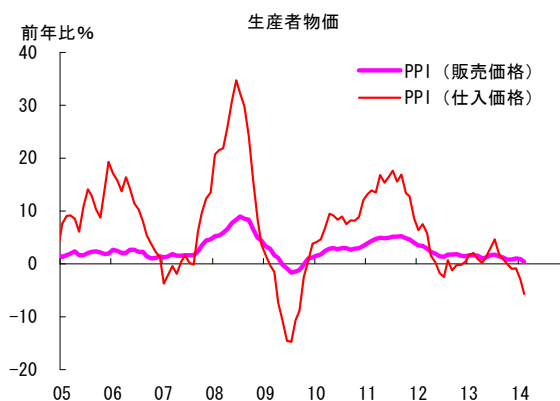
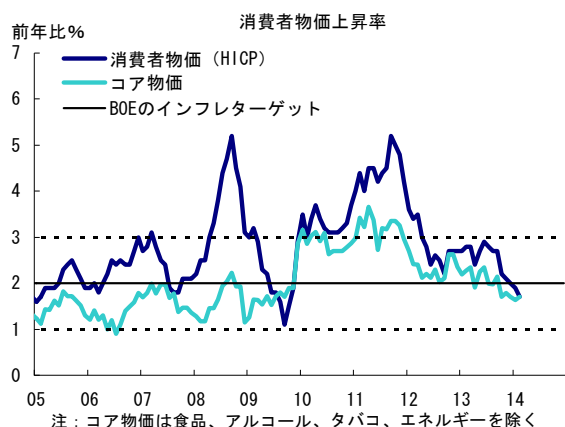
- 2月の消費者物価（HICP）上昇率は前年比+0.7%と1月からわずかに低下。エネルギー価格の下落が主要因。一方、コア物価は2か月連続で加速した
- 1月の生産者物価は前年比-0.6%と12月から変化なし
- 1月の独輸入物価は前年比-2.3%。ユーロの名目実効為替レートは上昇傾向が続く。2月の原油価格（北海ブレント）は前月比でわずかに上昇



出所：Eurostat、ECB、ドイツ連銀データより大和総研作成

英国 物価

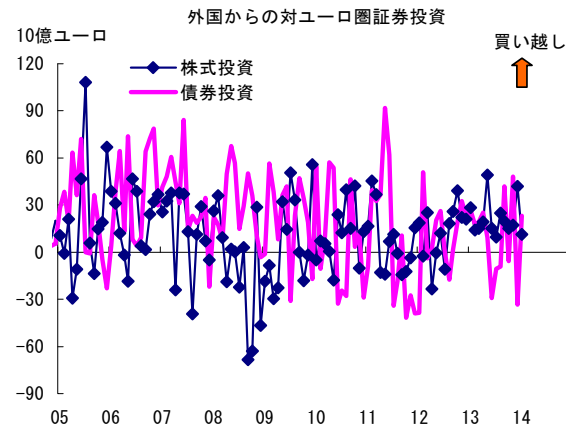
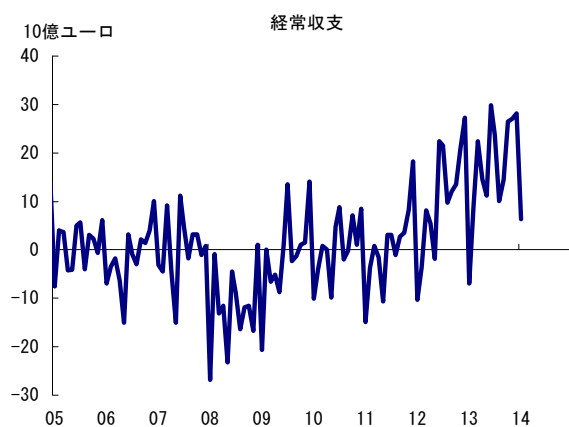
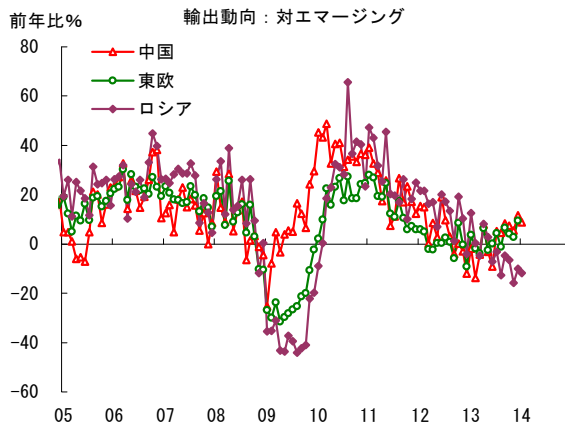
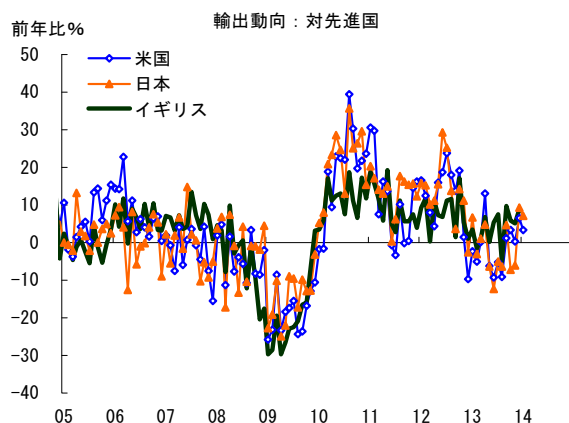
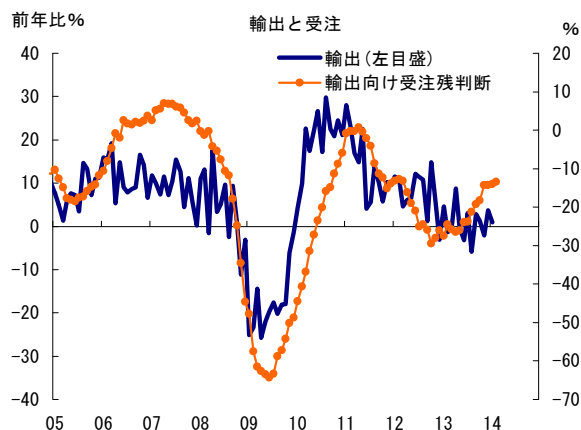
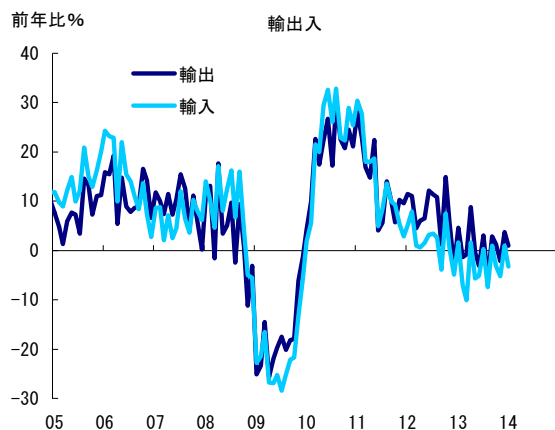
- 2月の消費者物価（HICP）上昇率は前年比+1.7%と低下が続く。最大のマイナス要因は、ガソリン及びディーゼル価格下落による輸送費の低下
- 2月の生産者物価上昇率は販売価格は前年比+0.5%。仕入価格は同-5.7%と1月から更に下落。原油価格が大きく落ち込み、加えて輸入原料全般の価格低下が影響した
- 1月の輸入物価上昇率は前年比-2.5%と更に落ち込む。ポンドの名目実効為替レートは13年3月を底とした上昇傾向が続く



出所：Eurostat、英国統計局データより大和総研作成

ユーロ圏 国際収支

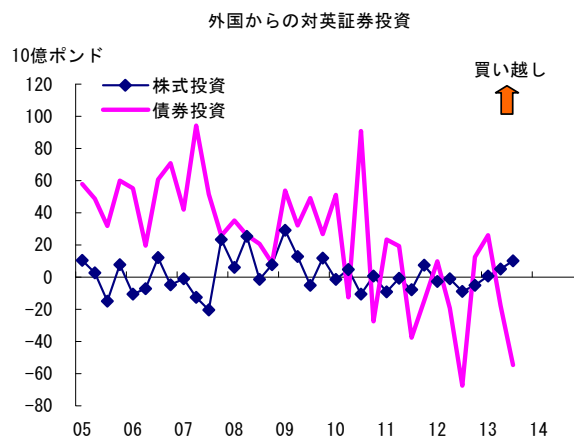
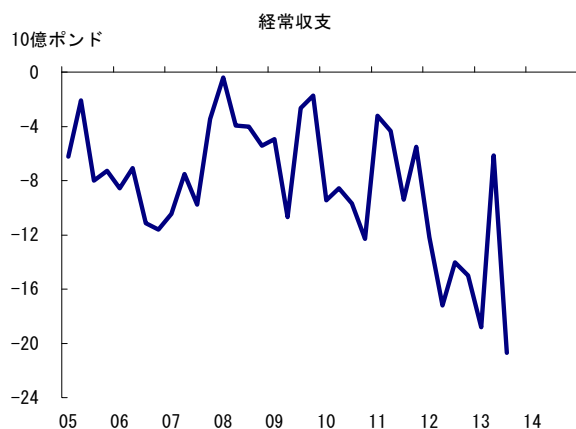
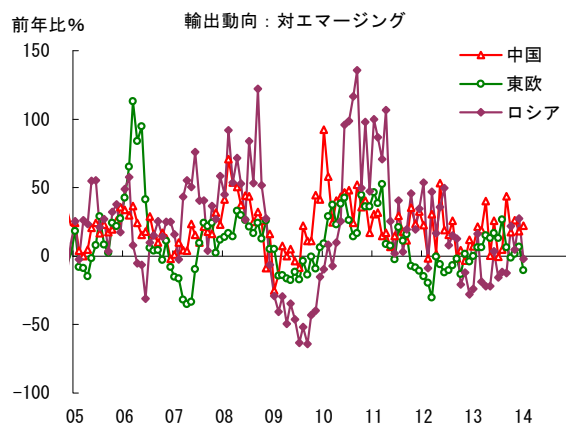
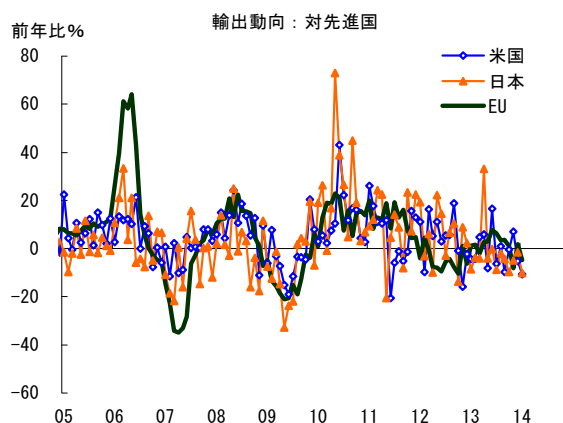
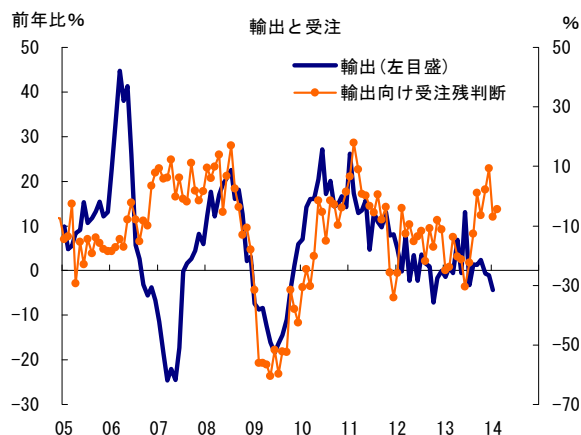
- 1月の輸出は前年比+0.9%。輸入は同-3.2%と再び前年割れに転落。2月の輸出向け受注残判断はわずかに改善
- 国別輸出ではロシア向けのみ減少が続く。米国、中国及び日本向けは増加継続
- 1月の経常収支は64億ユーロと12月から大きく減少。貿易収支黒字の大幅縮小が主要因。外国からの対ユーロ圏証券投資は、債券投資が買い越しに転換



出所：Eurostat、ECB データより大和総研作成

英国 国際収支

- 1月の輸出は、燃料及び工業製品の不振により前年比-4.3%と減少幅拡大。一方、輸入は燃料及び工業製品のプラス寄与により同+3.1%とプラスに転換
- 国別輸出動向を見ると、先進国向けはすべてマイナスとなった。堅調な伸びを記録していた新興国向けは、東欧及びロシア向けが前年割れに転落。中国向けのみプラス成長を継続
- 2月の輸出向け受注残判断は、1月からやや持ち直した



出所：Eurostat、Haver Analytics、英国統計局データより大和総研作成